あわせて訪ねたい 寺院・神社

可睡斎

遠江曹洞宗発展の基礎を築いた如仲天闡の弟子である大路一遵と、久野城主宗隆を開基とする曹洞宗の名刹です。徳川家康との関係も深く、江戸時代には三河、遠江、駿河、伊豆の四カ国の僧侶の人事権を与えられた大寺院でした。

油山寺

大宝元年(701)行基により開山し、天平勝宝元年(749)孝謙天皇の眼病治癒の功績により勅願寺になったと伝えられる真言宗の古刹で、久野城で没した宗成の父宗能の位牌もあります。三重塔の相輪伏鉢には慶長16年(1611)久野宗成が寄進した銘文があります。

冨士浅間宮

久野城は東海道を監視すると共に、永禄11年(1568)武田信玄により攻められ掛川城に逃げ込んだ今川氏真を討つべく、徳川家康の掛川城攻めの前線基地となりました。不入斗の地にも家康陣所があった記録があり、冨士浅間宮が陣所の候補地となっています。

上嶽寺

最後の城主北条氏重が、万治元年(1658)掛川城主の時に亡くなりました。最初は掛川市内に葬られましたが、墓の管理が行き届かなかったため、寛文4年(1664)堀内重勝を中心とした家臣たちにより上嶽寺の裏山に改葬され、今でも地震で壊れた氏重の墓塔が残っています。

袋井の城・館・陣屋位置図

寺や個人が管理している場所もありますので、一言ことわってから訪ねてください。

参考図書　袋井市「目で見る袋井市史」2001年／浅羽町「図説浅羽町史」2001年／袋井市教育委員会「遠江久野城！―歴代城主が残したもの―」2008年／加藤理文・中井均編「静岡の山城ベスト50を歩く」2009年 サンライズ出版／加藤理文編「静岡県の歩ける城70選」2016年静岡新聞社

協　　力　久野城址保存会

発　　行　袋井市教育委員会
〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地(浅羽支所内)
TEL.0538-23-9264

市指定文化財

久野城

見学案内パンフレット

見学のお願い
- ●崖や急斜面など危険な場所には近づかないでください。
- ●コース以外の場所への立ち入りは極力避けてください。
- ●マムシに注意してください。

袋井市教育委員会

城の歴史と構造

久野城には座王権現社があったことから蔵王城とも呼ばれ、戦国時代では地元武将久野氏の居城でした。築城は明応年間(1492～1501)久野宗隆とされ、天正18年(1590)徳川家康の関東移封に従い、久野宗能も下総佐倉に移りました。久野氏の関東移封後は、豊臣家臣である松下之綱・重綱親子、慶長8年(1603)再び久野宗能から宗成、最後の城主として元和5年(1619)家康の甥である北条氏重が入城しますが、正保元年(1644)に廃城となりました。

本丸や高見から南方向を見ると、東海道が東西に延びていることが見通せるため、街道監視目的の城であることがよく分かります。城の各所に曲輪や堀切、土塁、横堀などがあり、戦国時代～江戸時代初期の平山城の姿をよくとどめています。城の北側には横堀と大土塁が配され、北側からの防御を固めていたことが分かります。さらに城の南・東・西側は現在水田ですが、かつては周囲に水堀が巡り、その外側は湿地という天然の要害により守られていました。

発掘調査では久野氏時代の掘立柱建物や土器・陶磁器、松下氏時代の礎石建物や瓦が出土し、北条氏時代では本丸の建物が壊された(破城)痕跡と、城の中心を山麓部に移したことが確認されました。戦国時代の戦う城から、久野城周辺を統治する役所としての役割に変化したことが、発掘調査の成果から判明しました。

台風で水没した久野城です。かつて水堀に囲まれていた様子が、よくわかる風景です。

北東方向から見た城の遠景です。城の北側は尾根づたいとなっており、敵兵の攻撃が予想される場所です。

さぁ! 久野城を歩いてみよう!

久野城案内図（加藤理文氏作図 一部加筆後着色）

見所1

横堀と大土塁

城の北側はかつて尾根つづきで、敵兵が攻めやすい場所でした。斜面の中程に空堀を横方向に掘り（横堀）、廃土を外側に盛り土塁とし、かつて道路部分に大掘切があり、城の弱点である北側の防御を固めていました。

見所2

本丸・北下段曲輪間堀切

東側は横堀と接続しており、城の弱点である北側防御の施設です。北条氏時代には一部埋められ、通路や曲輪の一部として改修されたと思われます。城内の堀切としては一番規模の大きなものです。

見所3

二の丸井戸

本丸の出入口（虎口）にある井戸で、今でも水が湧いています。この井戸の水は籠城の際、城兵の命の水となっていました。現在井戸の東側は埋め立てられているため、本丸虎口の形状はよくわかりません。

見所4

本　丸

現在の本丸は北側がやや高い地形を示しています。発掘調査から櫓台と井戸のある出入口（虎口）を埋め立て、曲輪の北側を削っていたことが確認され、北条氏時代に本丸の破壊行為（破城）があったと思われます。

見所5

高　見

高見と呼ばれる曲輪で、本丸と共に東・西・南方向の見通しが良い場所です。とくに南方向で東海道が東西に通過していることが確認できるため、久野城が街道監視目的のための城であったことがよくわかります。

見所6

南の丸と高見

久野城のなかでもつとも広く、日当たりの良い曲輪です。地盤もよいことから歴代城主の館があったと思われます。発掘調査では久野氏時代の掘立柱建物が発見されています。背後には高見があります。

見所7

主税屋敷ほか曲輪群

城の西側の曲輪には主税屋敷（ちからやしき）の地名が残り、家臣屋敷の存在が推定されます。発掘調査から谷や水堀を埋め立て、曲輪を拡張していることが確認され、北条氏時代の山麓曲輪の大規模な改修が判明しました。

見所8

大　手

大手と呼ばれた城の玄関にあたる曲輪です。東海道から油山寺に至る道に面しており、松下氏時代に整備されたと思われます。櫓門と呼ばれる大きな門があり、北条氏重により掛川城北門に移築されたと伝えられています。

見所9

東の丸礎石建物

東の丸で松下重綱が江戸幕府に無許可で工事を行ったことを咎められ、慶長8年（1603）小張（茨城県つくばみらい市）に移封、蟄居となりました。発掘調査で史実どおり松下氏時代の礎石建物が確認されています。

見所10

竪　堀

横堀の東端で斜面に対して縦方向に掘られた空堀（竪堀）があります。斜面を登ってきた敵兵を、東の丸や大手などの城内に進入させないため、東方向への移動を阻止する目的の堀です。